



TITLE:

田中耕治先生の御退職によせて

AUTHOR(S):

石井, 英真

CITATION:

石井, 英真. 田中耕治先生の御退職によせて. 教育方法の探究 2017, 20: i-i

ISSUE DATE:

2017-04-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/226099>

RIGHT:

許諾条件により本文は2018-05-01に公開

田中耕治先生の御退職によせて

田中耕治先生、御退職おめでとうございます。先生が長年にわたり京都大学大学院教育学研究科 教育方法学講座 教育方法研究室でなさってこられた真摯なお仕事に心から感謝するとともに、ささやかながら本誌を田中先生の御退職記念号として、お贈りしたいと思います。

田中先生は、ご紹介するまでもなく日本の教育方法学研究の第一人者であり、幾多のご業績を挙げられ学会をリードするのみならず、現場の先生方の実践を励まし、また、指導要録改訂等の教育制度改革も導いてこられました。特に、心理学の立場ではなく教育学の立場から、教育実践の論理に即した教育評価論を構築され、教育評価の研究といえば京都大学の田中研究室と言われるまでに、日本で未成熟であった若い学問領域を育ててこられました。

さらに、田中先生は多くの教育方法学研究者を育てられました。「後生畏るべし」「弟子の後ろをついて歩く」と田中先生はよくおっしゃっておられました。田中先生は、私たち教え子に種をまき、教え子それぞれの個性を尊重しながら、その成長を根気強く見守ってくださいました。卒論や修論のテーマ選びにおいて、先生が示して下さる文献や素材や切り口の的確さを、教え子たちは「田中マジック」と呼んでいたものです。先生は、その広くて深い学識を背景に温めてこられたとびきりの研究テーマや着想を、惜しげもなく教え子に分け与えてこられました。しかも、先生の想定する結論を押しつけるのではなく、まさに同じ対象を共有し研究する同志、あるいは先輩研究者のような立場で、アドバイスを下さっていたように思います。

田中研究室の院生はみんな評価の研究をしているのでしょうかと尋ねられることもありますが、

評価の研究をメインテーマにしている院生の少なさを知って驚かれます。これまで『教育方法の探究』に掲載された論文のテーマにも表れているように、教え子たちの研究テーマは多様であり、それは田中先生の懐の深さがなせる業でしょう。田中先生ほどに教育方法学研究、教育学研究の研究コミュニティの継承・発展に尽力された先生はほとんどいらっしゃらないのではないかと思います。

研究に対する厳しき、さまざまな場面での判断の的確さなど、こころ一番ではシャープな田中先生ですが、ふだんはいつも笑顔で、ユーモアたっぷりでおちゃめな先生で、その田中先生を囲んで、研究には真面目に取り組み、でもゼミの外での遊びも忘れない、それが田中研究室であったと思います。

困ったときの田中先生頼みができず、また、田中先生のようなすぐれた研究活動と研究室運営ができるか、心細い気持ちですが、先生が言葉や背中で教えてくださったことを心に刻んで、先生の学恩に応えるべく、先生の志とお仕事を引き継いでいければと思っております。

田中先生、どうぞ、これからもお身体をお大事に、お元氣でご活躍ください。そしてこれからも京都大学教育学研究科を、教育方法研究室をご指導いただき、未来の発展を見守ってくださいますよう、お願い申し上げます。

2017 年春

教育方法学講座准教授

石井 英真